



THE AKAMATSU KYOWA UNIV. 知識の森通信 vol. 35

http://www.kyowa-u.ac.jp

編集: 宇都宮共和大学入試広報委員会 発行: 宇都宮共和大学

宇都宮共和大学

宇都宮シティキャンパス 〒320-0811 栃木県宇都宮市大通り1-3-18
長坂キャンパス 〒321-0346 栃木県宇都宮市下荒町長坂3829 TEL.028-649-0511
那須キャンパス 〒329-3121 栃木県那須塩原市鹿野町131 TEL.0287-67-3111

index

- P1 ■ シティライフ学シンポジウム開催
■ どちぎ消費者カレッジ
■ 就職セミナー・講演会
■ 宮まつり・学生ゆかた祭り
■ ラッピングバス運行開始!!
■ 新入生歓迎バーベキュー大会
■ はじめまして! 新任の先生方のご紹介
■ Topics
■ 留学生日本語弁論大会4年連続優勝
- P2 ■ 宇都宮共和大・宇都宮短大的祭
■ すみれ祭・彩音祭
■ 地元就職なら共和大!
- P3 ■ 子育て支援研究センター公開講座開催中
■ 障がい児と家族への支援活動 Tiny
■ 実習報告会を開催
■ みどり幼稚園との交流保育
■ 1・2年合宿交流研修を実施しました

シティライフ学シンポジウム開催



田村 秀先生

7月8日、宇都宮共和大学都市経済研究センター主催による「シティライフ学シンポジウム」が宇都宮シティキャンパスで開催されました。今回のテーマは、「地域資源の活用とまちづくり」。今、日本中でブームを巻き起こしているB級グルメとその背景にも造詣の深い、田村秀先生(新潟大学法学院長・教授)による基調講演「食を活かした地域の魅力づくり」からスタート。

続いて、古池弘隆都市経済研究センター長(本学シティライフ学部教授)の司会によるパネルディス

カッションへと進み、中山悦夫氏(宇都宮市総合政策部広報官)、松本謙氏(ファーマーズ・オフレスト代表取締役社長)、渡辺慶子氏(栃木リビング新聞社執行役員)と田村先生のパネリストが、宇都宮都市圏にある地域資源の可能性やその地域資源をいかにまちづくりに結びつけるかなどについて、活発な議論を繰り広げました。

パネルディスカッションの後は、地産地消の力でござ食いただき、なごやかな雰囲気のなかで終了しました。



どちぎ消費者カレッジ

栃木県による栃木消費者ネットワーク委託事業「どちぎ消費者カレッジ」の一環として、シティライフ学部専任講師の吉良貴之先生(法学)がコーディネーターを務めて、若者向け消費者被害防止の講習会が2週間にわたり開催されました。

第1回「若者と消費者問題—ネットトラブルから考える法学入門」は宇都宮シティキャンパスで開催し、講師に松尾剛行先生(弁護士、ハーバード大学)と横田明美先生(行政法、千葉大学法経学部)をお招きました。第2回「賢い消費者になって社会に出よう—カフェで語るネットトラブル対処法」は下野新聞まちなか支局ニュースカフェにて開催し、横田先生と梅山哲也先生(弁護士、宇都宮市内)で開業をお招きしました。

それぞれ3人の先生による公開討論会の形式で進められた本力レッジは、学生にとっても消費者問題を身近なものとして考える良い機会となりました。



就職セミナー・講演会

7月1日、宇都宮シティキャンパスで、宇都宮共和大学・宇都宮短期大学の在学生と保護者を対象とした就職セミナー・講演会が開催されました。

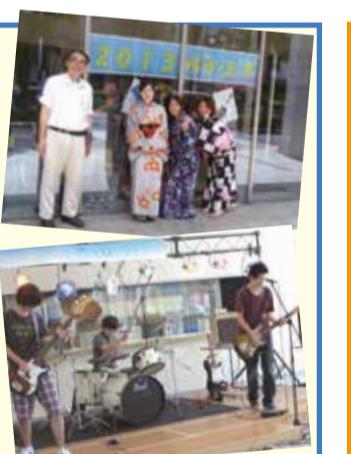
第1部では、栃木経済同友会理事・トヨタウッドユーホーム代表取締役社長 中津正修氏を講師にお招きして、「企業が求める人材とは」と題して、採用サイドからみた人財とは何か、県内産業界の望む人材像、大学で学んで欲しいこと等について、お話を伺いました。

第2部は、元CRT栃木放送アナウンサー 斎藤孝信氏による「面接の構えとポイント」。志望動機の伝え方や自己PRのコツを分かりやすく解説してくださいました。長時間の講演会でしたが、多くの在学生が大変、熱心に受講し、後援会のご協力により父兄も参加してくださったことも新しい収穫でした。



宮まつり・学生ゆかた祭り

8月3日と4日に、宇都宮ふるさと宮まつりが開催され、およそ50万人の人出で賑わいました。宇都宮シティキャンパスには、お祭りの踊り部が設置され、2日目には急な雨もあって、沢山の方たちがキャンパス内に雨宿りをされたりと、普段のキャンパスとは違う「まちの駅」の役割を存分に発揮しました。また、3日の宮まつりスタート直前には、エントランスホールで学生ゆかた祭りが開催され、ライト・ミュージック・クラブのメンバーによる浴衣を着てのバンド演奏で、大いに盛り上がりました。



ラッピングバス運行開始!!

車体の全面に宇都宮共和大学と宇都宮短期大学のイラストを施した、栃木県の大学では初めてとなるラッピングバスが、7月2日より関東自動車㈱のJR宇都宮駅→新鹿沼間の路線バスとして運行を開始しました。内藤英二教授によるマーケティングの授業の一環として16名の学生が制作したデザイン原画とキャッチフレーズが元になっており、宇都宮市内を1日に5往復し、そのうち3回は長坂キャンパスにも乗り入れています。

はじめまして! 新任の先生方のご紹介



吉田 肇 教授

[担当科目]
都市経済学
地球環境論ほか吉良 貴之
専任講師[担当科目]
法学入門
憲法ほか

これまでの官民における多様な経験・ノウハウ、ネットワークを活かしながら、宇都宮都市圏の活性化をテーマに取り上げるなど、身近な地域経済の動向について具体的に研究を進めたいと考えています。

TOPICS

[担当科目]
上級簿記
実用簿記ほか

今年4月から新しく簿記関係の科目を担当していただいている飯島二郎先生。簿記のスペシャリストで、日商簿記検定を中心に、昼夜休みや講義終了後の時間も利用して、受験対策を熱心に指導していただいている。

留学生日本語弁論大会
4年連続 優勝

7月6日、宇都宮健康の森で開催された「留学生日本語弁論大会」で、韓国からの留学生でシティライフ学部4年生の趙文卿(チョ・ムン・キョン)さんが、見事、優勝を果たしました。

「優勝なんて、びっくり。アドバイスをしてくださった先生方に感謝!」と趙さん。本大会でのシティライフ学部留学生の優勝は、これで4年連続となりました。おめでとうございます。

子ども生活学部 子育て支援研究センター
公開講座開催中

子育て支援研究センター主催の公開講座が6月からスタートしました。今年は中学・高校生の発達の課題についても取り上げ、「幼児期から青年期までの子どもの発達と教育のために」を大きなテーマとしています。

第1回は、日光市でNPO法人「だいじょうぶ」を運営する畠山由美先生をお招きました。虐待やいじめを受けている子ども、不登校、家庭内暴力、非行、依存症など様々な問題行動のある子どもは、「支援を必要としている子ども」であり、彼らに寄り添う活動を続けてきました。子どもたちの怒りの仮面の裏側に気づき、心のケアを行っておられる具体的なお話は参加者の胸を打ちました。

第2回は、白梅学園大学学長の汐見稔幸先生の「思春期の子ども達の悩みと子どもを伸ばす力」でした。思春期とは大人になる手前で、もがいている時期であり、接し方の基本や親としての心構えの大切さなどを、ご自分の子育ての経験をまじえてわかりやすくお話いただきました。

今年は中学、高校の先生、保護者の方のご参加もたくさんありました。参加者からは「思春期の子ども達がいるので、興味深く聴講できました」「感動しました、これから的人生で活かせること、実行していきたいことがいっぱいでした」「畠山先生のお話に感動して2回も泣いてしまいました。これから良い親子関係を作りたいと思います」「恵まれない子ども達(虐待、非行)が増える中、親たちに自分の子だけではダメだと聞いてもらいたい」「だいじょうぶの存在は新聞で知っていましたが、実際に話が聞けて良かったです」など大好評でした。

9月21日(土)14:00~16:00には、中央大学教授山田昌弘先生の「家族のこれからー受験、就活、婚活、保活ー」。10月12日(土)14:30~16:00には、白梅学園大学教授堀江真由美先生の「発達障がい児の支援活動をしたい人のためにー私たちができることー」。11月30日(土)14:30~16:00には、玉川大学教育学部教授大豆田啓友先生の「今どきの子育てにいたいせなこと」が、予定されています。10月、11月は本学教員による音楽や昔話や遊びの研修講座が13:00から講演会の前に行われます。幼児期から青年期までの教育関係者、保護者の方々のご参加をお待ちしています。

子ども生活学部
障がい児と家族への支援活動

子ども生活学部子育て支援研究センターTinyでは、ボランティアの学生たちとともに、障がいのある子どもとご家族のための遊びの集いを行っています。参加者にも好評で、「子どもが毎回楽しみにしています」「温かい雰囲気と明るい学生たちに元気をもらつた」「親子で癒されました」「ずっと続けてください」とたくさんの声が寄せられています。

活動内容は、歌や楽器を使った音楽遊びや、リズムに乗って運動遊びをしたり、絵の具を使いつぶつと使って自由にお絵かき遊びをしたりなど、様々な個性あふれる子どもたちが、家族や学生たちと共に自分らしく伸び伸びと楽しく過ごしています。学生たちも、参加するたびに新たな感動と実践的学びがあるようです。

9月22日(日)には、本学の須賀友正記念コンサートホールで、Tiny「障がいのある子どもと家族の支援のためのチャリティー・ジャズコンサート」を開催します(15:30開演)。多くの方々のご参加をお待ちしています。(問合せ先:tiny@kyowa-u.ac.jp 担当土沢)



実習報告会を開催

7月26日、子ども生活学部の1~3年生全員が出席して、3年生により実習報告会が行われました。3年生はこれまでに、教育実習として2年次の10月に1週間の幼稚園観察実習、保育実習として2月に11日間の保育所実習、3年次の6月に11日間の施設実習と、3回の実習を体験しています。

報告会の第一部では、幼稚園、保育所、施設での実習体験を6人が発表しました。「実習の初めは何が分からなかなさい」と「分からない不安と緊張のスタートだったようです。「大学での学習とは一味違った実践的な体験ができ、自信が持てるよい経験になった」との感想が報告されました。次に、実習生の1日をコミカルに演じた寸劇と、「子どもと話すときは目線を合わせるためにしゃがむ、○か×かなど、クイズも行われました。第二部は、実習地域毎に9つのグループに分かれ、1・2年生を交えて懇談しました。

3年生にとっては、卒業までに実施される実習のおよそ半分が終了したこの時期に、実習で学んだこと、発見したこと、うれしかったこと、今後の準備などについて整理する良い機会となりました。1・2年生は先輩の体験談を聞くことで、実習に向けての不安や疑問を解消したり、今後の課題を見つけることができ、有意義な報告会でした。

4月24日、小雨がぱらつく中でしたが、バスで鬼怒川のホテル三日月に到着し、いよいよ共和大・宇短大的合同の「1・2年生合宿交流研修」の始まりです。全体会では、「自分を活かしつつ、集団生活を楽しむ」というテーマのもと、音楽科による合唱と全学生によるミッキーちゃんけんけんを実施し、学科を超えた親睦を深めました。

その後、いよいよ学科別分科会が始まり、子ども生活学部は、「仲間とつながろう」をテーマに2部構成で行いました。前半は、全員による「バースデーチェーン」「猛獣狩り」「ミッキーマウス体操」などのコミュニケーションゲームとダンスで汗をかきました。後半は、壁面構成の作成、クラフト、布ポン、けん玉・コマの4種類の子ども遊びを学びました。2年生が、実習などで利用したこれらの遊びを新入生に教え、1・2年生と教員が一緒に見て互いの親睦・交流を深めることができました。

翌日、4月25日は快晴。中禅寺湖畔で昼食後、思い思いに自然散策。残雪を横目に華厳の滝の見学や中禅寺湖でボート、湖畔散策…と日光のおいしい空気を満喫してきました。

みどり幼稚園との交流保育

みどり幼稚園と子ども生活学部が協働で進めている交流保育は2年目を迎みました。園児との交流活動は、学生の子ども理解を深めるための授業として位置づけられ、「保育内容」「環境」「人間関係」「表現」などの科目を担当する教員が幼稚園の先生方と一緒に取り組んでいます。

平成25年度の第1回は、5月31日に実施しました。晴天の下、さわやかな風と共に年中・年長児の歌声がグラウンド、アリーナに響きました。今回は、「自然で遊んだり、体を動かして楽しもう」のテーマを掲げ、2年生全員が準備から積極的に取り組みました。学生と幼児とがペアになり、前半はアリーナにて、ペア体操で思いっきり体を動かしました。「初めは子どもが楽しんでくるか心配していましたが、子どもの興味や関心に寄り添いながら、虫や花と一緒に見たり、触ったりしているうちに、だんだん大きな声でおしゃべりしてくれるようになりました。笑顔が見られるようになりました」とおしゃべりしてくれるようになります。楽しんでくれていることが伝わってきて、とても嬉しいと思いました」「だんだん1人ひとりの子どもの特徴がわかつきました。幼稚園の先生は1人ひとりの個性を受けとめていろいろなことを教えていました」など、学生にとっても貴重な体験となりました。今後も幼児と学生の出会い・交流・学び合いの機会を積極的に設けていきます。



寸劇「実習生の1日」
「見せて、見せて…あっ、大きなナメクジだ！」
「声をあわせて、セーノ！」

1・2年合宿交流研修を実施しました



操」などのコミュニケーションゲームとダンスで汗をかきました。後半は、壁面構成の作成、クラフト、布ポン、けん玉・コマの4種類の子ども遊びを学びました。2年生が、実習などで利用したこれらの遊びを新入生に教え、1・2年生と教員が一緒に見て互いの親睦・交流を深めることができました。

翌日、4月25日は快晴。中禅寺湖畔で昼食後、思い思いに自然散策。残雪を横目に華厳の滝の見学や中禅寺湖でボート、湖畔散策…と日光のおいしい空気を満喫してきました。

